

25 市販アロマオイルとシソの葉エキスの  
マウスに対する鎮静、鎮痛、睡眠効果

○我妻 千尋<sup>1</sup>、若命 浩二<sup>1</sup>、三浦 健人<sup>1</sup>、町田久<sup>2</sup>  
徐 学忠<sup>2</sup>、千葉 英俊<sup>2</sup>  
(株)アミノアップ化学<sup>1</sup>、セラ治療院<sup>2</sup>)

【目的】アロマオイル (AO) の中には経験的にストレス緩和作用などがあることが知られている。しかし、その効果についてはあくまでも主観的であり、薬理的根拠に乏しい。そこで今回我々は、いくつかの動物モデルを用い、市販 AO と株)アミノアップ化学社製シソの葉エキス (PE) の効果を明らかにするために動物実験を行った。

【方法】10種のAOは1% (V/V) になるように乳化した。またPEは100mg/ml (W/V) になるように溶解した。それぞれのサンプルを ddY 系マウスに i.p. 投与 (0.1ml/10g 体重) した。薬理試験は全て定法に従い検討した。

鎮静効果の検討：open field 法により AO と PE について自発運動量の測定を行い、特徴的な結果の得られた5種のサンプルを以下の実験に供した。

鎮痛効果の検討：酢酸ライジング法により発痛に起因するストレッチング回数を計測した。

睡眠効果の検討：ペントバルビツール (PB) による入眠、睡眠時間の延長を測定した。

【結果】open field 法により PE>カモミール>ラベンダー>カルマンツの順で鎮静効果が確認された。反対にジェニパーは強い運動促進作用が確認された。さらにこれらの鎮痛効果および睡眠延長作用は共にジェニパー>ラベンダーで強い活性を示した。また、PB 睡眠で入眠までの時間は PE のみがコントロール群よりも短縮した。

【結論】一般に言われている AO の効果を実験的に確認することが出来た。さらに、ヒトでの効果と今回の実験結果にある程度の関連性がみられたことから、アロマセラピーの科学的解明に今後も期待が持たれる。